みんなちがってみんないい

Ｒ２その（１０）

指導教諭　木村　栄

いよいよ本年度も今月で終わります。ちょうど一年前に緊急事態宣言が全国に発令され、今までに経験したことの無い事態が世界を襲いました。誰もがここまで長期化するとは思っていませんでしたし、コロナウィルスによって、一気に世界の生活様式や労働環境などが変化してしまうとは想像もできませんでした。

実は、コロナによる自粛生活、働き方改革によって、新たな問題が浮かび上がってきました。それが「大人の発達障害」です。

今年度最後のテーマは「大人の発達障害」についてお話します。

発達障害は一生続くものなので、大人にも発達障害があることは分かっていましたが、大きく取り上げられることはありませんでした。

しかし、自宅で長時間、家族や夫婦だけで過ごす生活が増えたことで、大人の発達障害が顕在化する事例が急増しています。発達障害のある配偶者をもつ方の悩みは深刻で、抱える問題も多岐に渡ります。「個性」「性格」で済ませるには負担が掛かり過ぎるからです。

先日、ＮＨＫの情報番組「あさイチ」で「大人の発達障害」が取り上げられていました。ご覧になった方も多いのではないかと思います。私も番組のことを知っていたので、録画して見ました。

ゲストは落語家の柳谷花緑さんで、ＬＤ及びＡＤＨＤの当事者であり、ご自身の障害についての著書もあります。花緑さん自身、大人になってから診断を受けた方で、それまで自身に障害が有るとは夢にも思っていらっしゃいませんでした。

花緑さんは学生時代、「字が頭に入らない」「書いてあることの意味が分からない」「集中力や注意力が続かない」ことで、まったく勉強ができず、学校生活は苦労の連続、人から馬鹿にされることに悩んでいたそうです。

そんな自身の学生時代の話をネタとしてテレビで披露したところ、視聴者から「自分の子も花緑さんと同じ障害をもっているが、どうやって乗り越えたのか教えて欲しい」とメールが来たそうです。初めはそのメールに対し「自分は障害ではない！」という不快感があり、「自分は障害ではないし、全く勉強ができなかったのではなく、美術や体育の成績は良かった」という返信をしたそうです。すると「自分の子もまったく同じです。だから識字障害ではないでしょうか？」という返信が来たそうです。そこで「識字障害」について調べてみると、自分にピッタリ当てはまる。長年、自分を苦しめていたものの正体が分かり、病院で「ＬＤとＡＤＨＤ」の診断を受けたそうです。

番組の中で、就職後や結婚後、退職後に配偶者の発達障害が顕在化し、一緒に生活することが難しくなったという声が多数寄せられていました。当事者や相談者の年代も２０代～７０代と全ての世代に見られます。神奈川県の「発達障害特性のあるパートナーを持つ人たちの会　フルリール」には、キャンセル待ちの人が出るほど参加を希望する方が多く、情報を共有したり話を聞いてもらったりすることで、悩みを一人で抱え込まないような活動をされていました。

番組で紹介された配偶者の悩みを少し取り上げると、「子どもがケガをして助けが必要なのに、スマホを触り続けて止められない」「会話が噛み合わず、いつ・誰が・どこで・何をした、を伝えないと答えが返ってこない」「自分の決めたルールを譲れない」など様々でした。

離婚原因のベスト１０の中に「性格の不一致」「お金の浪費癖」「暴力・モラハラ・精神的虐待」「親族付き合いができない」「性格異常・思いやりの無さ」「家庭を省みない」などがありますが、発達障害と無関係には思えません。配偶者や家族のことで友人や知人に相談してもなかなか理解してもらえず、「自分が悪いのではないか」と自分を責めるようになる方もいらっしゃいます。そのような場合、本人は「全く困り感が無い」、「困っているのは周りだけ」という状況に陥り、配偶者や家族が精神疾患等になっていくことが起こりやすくなります。

番組の中で「自分の障害を理解する（自己認知）」ことと「周りが障害についての理解を深める（共有・協力）」ことが大切で、それにより夫婦や家族の関係が変わっていくことが実例とともに紹介されていました。

もし同じ悩みを抱えている方がいるようでしたら、まずはご家族や信頼できる方と悩みを共有されてください。一人で抱え込まないことがとても大切です。

一年間、ありがとうございました。

次年度も　よろしくお願いいたします。

見る前に、「あかんなら囲い込み」が教育障害の人たちの自己肯定感を高めるためにはどうすればいいのか、ということを考えてみたいと思います。

以前、「障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするためにはどうすればいいのか」という問題を考えたことがあります。障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするためには、障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための環境を整えることが必要だと思います。

障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための環境を整えるためには、障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための知識を広めることが必要だと思います。

障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための知識を広めるためには、障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための情報を共有することが必要だと思います。

障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための情報を共有するためには、障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための場を設けることが必要だと思います。

障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための場を設けるためには、障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための人を育てることが必要だと思います。

障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための人を育てるためには、障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための教育をすることが必要だと思います。

障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための教育をするためには、障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための教育を受けることが必要だと思います。

障害者の人たちが、健常者と同じ生活をするための教育を受ける